

F1-20

伊豆の国市の観光周遊バス「歴バスのる〜ら」の活性化に向けた学部間連携の取り組み Interfaculty Collaboration Efforts to Revitalize Izunokuni City's Sightseeing Tour Bus "Rekibus Noru-la"

○高橋冨佑¹, 志村悠斗¹, 中井滉基¹, 石橋優希¹, 小野晃徳¹, 朝永巧太¹, 海野裕貴¹, 鳥嶋秀晃¹, 木内奏斗¹,
垣内孝太¹, 藤井敬宏²

*Go Takahashi¹, Yuuto Shimura¹, Koki Nakai¹, Yuki Isibashi¹, Akito Ono¹, Kota Tomonaga¹, Hirotaka Unno¹, Hideaki Torishima¹,
Kanato Kiuchi¹, Kota Kakiuchi¹, Takahiro Fujii²

To improve convenience for tourists, we developed systems for service information. And the College of International Relations created content about sightseeing information for the "Rekibus Noru-la", a bus that tours the World Heritage sites in Izunokuni City, Shizuoka Prefecture. This report summarizes the collaborative efforts of interfaculty faculties.

1. はじめに

本研究は、都市再生推進法人（一社）伊豆長岡温泉エリアマネジメントより、コロナ禍で観光需要が激減している伊豆長岡市の観光地の再生を図る一環として、大学と連携して、観光庁の「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業 2022 年度」¹⁾を展開した検討成果をまとめたものである。

特に、コロナ禍において現地調査に制約がある中、三島市の国際関係学部（矢嶋敏朗准教授のゼミ学生）と交通まちづくり工房地域活性化班が連携して、観光周遊バス「歴バスのる〜ら」の活性化に取り組んだ。

2. 観光周遊バス「歴バスのる〜ら」について

2015年4月、韮山反射炉の世界遺産認定登録に向け、観光客のアクセス確保を目的に伊豆長岡駅と韮山駅と韮山反射炉を結ぶ「無料シャトルバス」を運行した。その後、同年7月、世界遺産認定を受け、同年11月に観光需要を見込んで有料運賃制に変更した。

さらに、2016年7月、「歴バスのる〜ら」に愛称を変更し、市内観光施設の割引特典、ワンコインバスから1日周遊バス、大河ドラマ館とのセット割引（閉館後に終了）等を行い、概ね利用者は5.7人/便（収支率約50%）で運行を継続してきたが、コロナ禍、利用者は2.0人/便（収支率約10%）にまで減少した。

また、2022年度に開設された大河ドラマ館（NHK鎌倉殿の13人）との相乗効果により、3.4人/便（収支率約16%）と改善傾向を示し、更なるサービス支援として、先の観光庁の観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業を活用して、「歴バスのる〜ら」に観光案内情報を車内で紹介する情報案内ディスプレイ「のるビジョン」を導入することとなった。

しかし、その後、残念ながらインバウンドの観光需要が低迷し、2023年9月末で運行が終了となった。

3. 「のるビジョン」作成に向けた連携の取り組み

今回学部間連携を行った矢嶋ゼミでは、「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」において、「ポストコロナの伊豆の国市の新しい観光スタイル」について、宿泊客が利用できるモビリティの活用方法を検討している。そして、2022年4月、地域活性化班の担当である藤井教授が未来博士工房の学生たちのこれまで取り組んだ自治体の成果を紹介、担当教員間レベルで「地域活性化を図るまちづくり」への連携を図ることとなった。

文系と理系、研究の枠組みや実施方法が異なるため、まずは、学生間で伊豆の国市の観光の現状を理解し、地域活性化について意見交換することからスタートした。地域活性化班からは、富士宮の「宮バス」や世界遺産を巡る「強力くん」に搭載した情報案内ディスプレイのシステムとコンテンツを紹介し、矢嶋ゼミからは、実際に現地視察の状況を踏まえ、「歴バスのる〜ら」内の観光情報の不足、利用者が低迷している観光需要の課題等を紹介し、意見交換を行った。

その後、（一社）伊豆長岡温泉エリアマネジメントの方々とも協議を重ね、観光庁の補助事業の要件に該当することを確認し、新たな連携をスタートさせた。

Figure 1.に第1回のオンライン打合せの様子を示す。

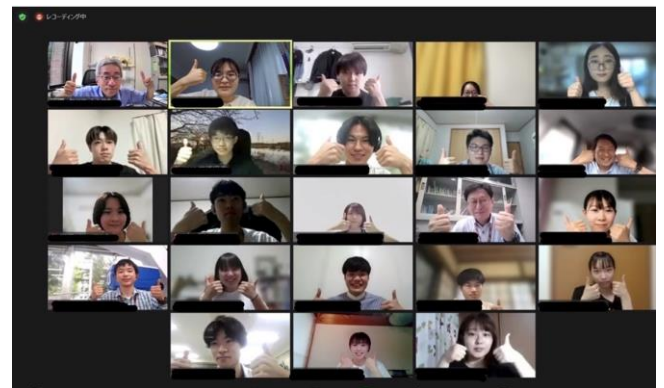


Figure 1. Zoom meeting of interfaculty faculties

1：日大理工・学部・交通 2：日大理工・教員・交通

4. 学部連携の役割分担と事業者との協議・検討

補助事業の申請に際し、学生間で活発な意見交換を行い、バスのデザインや SNS を活用したアナウンス方法、地域の歴史と風土の活かし方等、多岐に渡る改善内容を議論した上で、伊豆の国市で展開する取り組みとして、観光情報を効果的に発信することでバスの周遊性を高め、地域の活性化を図る取り組みがベストであるという結論を共有し、お互いの役割を明確化した。

- ① 矢嶋ゼミ：観光的見地からスライドデザイン案、紹介場所の選出、観光地の魅力、紹介する文案、特に世界遺産や寺社の説明文においては伊豆の国市観光課への確認作業、並びに搭載後の作動確認等を担当した。
- ② 地域活性化班：スライドの作成・編集および機材調達・バスへの設置等を担当した。なお、「のるビジョン」には、富士宮市と我孫子市で用いていたソフト (PowerPoint) を使用した。しかし、現地にて、使用する車両の製造年数が古く、交通事業者が設置した車載機器 (距離運賃表) と共有できず、接続方法の変更に時間を要した。

2022年8月、作成した「のるビジョン」を運行事業者の伊豆箱根バス㈱と (一社) 伊豆長岡温泉エリアマネジメントの方々と Figure 2.示す協議の場を設け、故障時の対応、広告会社の委託契約対応等、実務ベースの協議を行った上で、設置が了承された。

そして、同年10月、「のるビジョン」を Figure 3.に示すように設置した。当日の関係者を Figure 4.に示す。

さらに、同年12月、矢嶋ゼミが「歴バスのる〜ら」を貸し切り、実運行時を想定した動作確認や車内での視認性、スライドのデザイン等の検証を行い、画面切り替えのタイミング等の改善課題を抽出した。

その後、学部間連携の定期ミーティングにて課題を共有し、地域活性化班にて、機器の接続方法と PC の動作要件を修正し、2023年1月、本格運行となった。



Figure 2. Installation meeting with bus company



Figure 3. Installation status of "Noru-vision"



Figure 4. Commemorative photo after installation

5. おわりに

運行後の利用意向を把握するため、Google フォームを用い、日本語および英語で「のるビジョン」の今後の改良に向けた調査を 2023 年夏休みに向け準備していたが、同年8月開催の伊豆の国市地域公共交通会議にて、収支改善が見込めないとの判断で廃止が決定し、残念ながら実施には至らなかった。なお、今後の観光交通手段は、タクシー、シェアサイクル、レンタサイクル等に移行させる方針とのことである。

学部間連携による取り組みは、路線廃止という結果となったが、運行後、トラブルや故障もなく、さらに、伊豆箱根バス㈱の担当者様から、他の観光地の路線等に活用したいとの申し出をいただいた。

しかし、全国的に進む運転士不足の影響を受け、実施は先送りとなったが、学部間連携による取り組みは、一定程度の成果を上げたといえる。

6. 参考文献

- [1] 観光庁 HP : 「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」, 2022.7.15

https://www.mlit.go.jp/kankochu/page06_000251.html

謝辞

伊豆箱根バス㈱、伊豆長岡エリアマネジメント様、矢嶋ゼミの方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げる。